

市のホームページに「豊岡市バーチャル美術館」を開設

さまざまな所蔵品を一堂に紹介

市では、これまで豊岡市出身の芸術家から多くの作品を寄贈いただけており、これら寄贈いただいた絵画や書などの作品は市施設のロビーなどに展示していますが、作品の多くは、状態を保持するため、通常収蔵庫に保管している状態でした。

そこで、貴重、かつ、芸術性豊かなこれらの作品をより多くの方にご覧いただくため、

また本市出身の芸術家の偉大な功績を広く知っていただくために、市のホームページに「豊岡市バーチャル美術館」を開設しました。同コンテンツには、さまざまな所蔵品を一堂に紹介しています。

今後は、順次更新し、各施設等で保管や展示してある作品についても紹介していく予定です。ぜひ、ご覧ください。



所蔵品のほか、展示会に出品された作品も紹介しています

幼児期における運動遊び事業の展開

3歳児健診で普及啓発用パンフレットとDVDでPR

市では、子どもたちが心身ともに健やかに成長できるように、「豊岡市教育行動計画」の中で「幼児期における運動遊び」を推進することとし、平成19年度から本格導入しています。

この取り組みを在宅乳幼児の保護者など、市民の皆さんに広く周知するため、幼児期における運動支援の必要性の普及啓発を展開しています。

パンフレットは、3歳児健

診対象児の全保護者に健診来場時に配布します。また、DVD(約7分間)は待合時間などを利用して放映しています。

DVDには、幼児期における動的な遊びの必要性や親子ふれあい運動遊びの紹介、保育園・幼稚園での活動の様子などを収録しています。

なお、DVDの貸し出しもしていますので、ぜひ、ご覧ください。

《問合せ》子ども育成課



運動遊び事業普及啓発用パンフレット

豊岡市戦没者追悼式を開催

先人の思いを受け継いで 未来へつなぐ

10月26日、豊岡市戦没者追悼式を、市民会館文化ホールでしめやかに挙行しました。会場には、遺族・関係者ら約630人が参集し、市内全域で4,000余にのぼる御霊に哀悼の誠を捧げました。

式は参加者全員の黙祷の後、主催者である中貝市長が「戦没者を決して忘れない。そして受け継がれてきた豊岡を、さらに命が輝くまちにして未来へとつなぐ。それが今を生きる私たちの責務です」と式辞を述べました。また、来賓

による「追悼のことは」に続き、参加者一人ひとりから祭壇へ献花が行われました。命の尊さを改めてかみしめるとともに、平和への誓いを新たにしました。



会場に訪れた参加者は平和への誓いを新たにしました

出石の町並みが国の重要伝建地区に選定へ 趣と情緒ある町並みが評価される

出石城下町の歴史的な町並みを保存するために、豊岡市は8月1日、文部科学大臣に対して、「重要伝統的建造物群保存地区(重要伝建地区)」の選定申請を行いました。

その後、10月19日に文化審議会から文部科学大臣に出石伝建地区を重要伝建地区に選定する答申が行われました。これにより、年内に行われる官報告示を経て、出石伝建

地区が国の重要伝建地区に選定されることとなります。



重要伝建地区に選定される城下町の町並み

バイオディーゼル燃料(BDF)を学校給食配送車に使用 使用済みの食用油を精製して燃料へ 環境配慮に一步前進

11月13日、バイオディーゼル燃料(BDF)を使用した学校給食センター配送車の運行を開始しました。

このBDFは、市内の学校給食センターから出た使用済みの天ぷら油(ナタネ油含む)をBDF精製装置で精製したものです。

同装置は、100リットルの使用済み油を、約6時間かけて約95リットルのBDFに変換します。

また、精製時に発生するグリセリン等は、洗浄液(バイオオッシュャー液)として使用するなど、使用済み油を有効活用します。

配送車にBDFを入れた中貝市長は「環境対策に取り組み豊岡の象徴的な事業として、今後も着実に展開していきたい」と話していました。燃料を入れられた配送車は、早速学校へ向けて走り出していきました。



給食配送車にBDFを入れる中貝市長

防災のつどい&ゴスペルコンサートを開催

台風23号 あの日を忘れない

10月20日、平成16年の台風23号水害から3年を迎えた市では、21日、台風23号メモリアル事業として、あの日をわすれないをテーマにした、防災のつどい&ゴスペルコンサートを豊岡市民プラザなどで開催しました。

この事業は、台風23号の犠牲者の追悼と、被災経験を風化させることなく、今後の防災・減災対策に活かすことを目的に実施したものです。豊岡市民プラザでは、防災のつどいが行われた後、京阪神で

活動する総勢200人を超える「ボビーズ・ヘヴンリー・クワイアー」や豊岡高等学校音楽部の皆さんによる「ゴスペルコンサート」を行い、「世界に一つだけの花」や「ふるさと」など17曲が披露されました。

また、国土交通省豊岡河川国道事務所職員から当時の被害状況や復興状況などの説明を聞きながら、災害復興現場をバスで巡る「災害復興バスツアー」を行い、市民ら約30人が円山川立野大橋上流決壊



ボビーズ・ヘヴンリー・クワイアーや豊岡高等学校音楽部の皆さんによる「ゴスペルコンサート」

地点や出石川鳥居橋上流決壊地点などを巡りました。

中貝市長の後継母記

セールスマンの近況報告

首相官邸に呼ばれました。

10月18日の夕刻、政府の地域活性化統合本部のメンバーが地域の声を聞くという会議でした。豊岡をPRできると喜び勇んで出かけました。

町村官房長官、増田総務大臣、若林農林水産大臣、大田経済財政政策担当大臣等が出席され、市町村長と民間から6人が招かれていました。

まず最初に3分間(！)ですピーチ。コウノトリをめぐる取組みと環境経済戦略について述べたら「2分経過」のメモ。そこで、子育て支援のことを一分で。ぴったり三分。

その後意見交換。町村長官も増田大臣も、NHKの「ダイウインが来た！」でコウノトリのことをご存じでした。

10月24日は、環境省地球環境局長のところへ。来年5月先進国の環境大臣会議が神戸であります。豊岡までヘリコプターで30分、ぜひ豊岡へ、というお願いでした。実現するかどうかは分かりません。

10月31日、アジア・太平洋水サミットの事務局へ。12月に別府で水サミットが開かれるのです。担当者は、あと2カ月早く聞いていたら何かできたのに、と残念がつておられました。平成21年、トルコで開かれる世界水フォーラムでのアピールも考えましよう、とのことでした。

帰りに再び官邸へ。旧豊岡市助役の同期が岩城官房副長官の秘書官だと聞いて、出向きました。副長官と名刺交換すると、「これで三度目」と言われました。大野副長官ともエレベーターでバッタリ。

合併後さまざまなところで水害やコウノトリの講演もしてきました。回数は70回以上、聴衆は約15,000人になります。移動の飛行機は年間50回を超えます。どこかの知事ほどではありませんが、私も豊岡のセールスマンとして飛び続けています。

